

青山学院創立 150 周年記念事業

2024 年 青山学院 創立 150 周年
響け、青学マインド。

青山学院大学外国語ラボラトリー 主催
公開セミナー2024

生成 AI とどう付きあうか

諸分野の取り組みや現状から学ぶ

2024年
12月18日(水)
13:00~15:40

13:00-15:00 報告
(休憩 5 分)

15:05-15:40 討論

オンライン(Webex)

【参加対象】

小・中・高・大学教職員
学生、大学院生、教育関係者
卒業生、一般の方

TIMETABLE(予定)

13:00 -13:20	挨拶と 問題提起	“やわなコーヒー萌え”とゴッコ遊び:機械翻訳と生成 AI の振るまいを理解する 宮澤淳一(青山学院大学外国語ラボラトリー所長/文学研究・音楽 学・メディア論)
13:20 -13:45	報告1	生成 AI による文学研究:センテンスベクトルを用いて 近藤 泰弘(青山学院大学名誉教授/日本語史・コーパス言語学)
13:45 -14:10	報告2	音楽の作り手から見る《生成 AI 狂詩曲》 足本 憲治(国立音楽大学准教授/作・編曲家)
14:10 -14:35	報告3	生成 AI とバイアス:ジェンダーと人種の観点から 田中 東子(東京大学大学院情報学環教授/メディア文化論・フェミ ニズム)
14:35 -15:00	報告4	レポート課題は生成 AI にどう向き合うべきか?: 学生に求める貢献を問い直す 成瀬 尚志(大阪成蹊大学准教授/哲学・高等教育)
15:05 -15:40		報告者全員によるディスカッション

お問合せ先

青山学院大学外国語ラボラトリー
✉ fllweb@aoyamagakuin.jp

* 最新情報は、外国語ラボラトリー
Web サイトでお知らせします。

<https://www.agufl.aoyama.ac.jp/>

セミナーお知らせページは
コチラ →



参加方法

参加費無料/事前申込制

申込期限: 12/15 (日)

お申し込みは

こちらから▶▶▶

<https://forms.gle/ZrJEyHLJCVmhsCM3A>



青山学院創立150周年を迎えた本年、外国語ラボラトリーでは、あえて外国語教育の枠にとらわれないセミナーを行います。ここ数年取り上げてきた機械翻訳や生成AIについて、ここで広汎な知見を集めて理解をアップデートする必要があると考えるからです。

大学ではこれらの技術を積極的に取り入れて研究・教育に活用する者もいれば、困惑し、悩み、あるいは警告を発する者もいます。言語学、文学、哲学、音楽、メディア文化……各界の専門家のさまざまな報告や意見を聞き、これらの技術と生成物にどれほど妥当性や有用性があり、また、いかなる可能性や問題を秘めているかを考える場とします。語学研究・教育者に限らず、関心のある方の参加を歓迎します。

外国語ラボラトリー所長・総合文化政策学部教授 宮澤 淳一

報告者プロフィール

近藤 泰弘 (YASUHIRO KONDO) 青山学院大学名誉教授 (日本語史・コーパス言語学)

1978年東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修了。日本女子大学助教授・青山学院大学文学部教授を経て、現在、青山学院大学名誉教授。前日本語学会会長。著書に『日本語記述文法の理論』(ひつじ書房, 2000年)、共編著に『コーパスと日本語史研究』(ひつじ書房, 2015年)など。

足本 憲治 (KENJI ASHIMOTO) 国立音楽大学准教授 (作・編曲家)

作曲家としての活動に加え、映画・TV、コンサートにおける編曲をしばしば担当している。最近の作品に、吹奏楽曲『Kicky Game』(WAKO Records)、フルート独奏曲『Bocc』(Daiki sound)、編曲活動にNHK連続テレビ小説『おかえりモネ』、TV-CF『いち髪』などがある。現在、国立音楽大学准教授。日本作曲家協議会、先端芸術音楽創作学会会員。また、作曲家久石譲氏のアシスタントを2002年より務めている。

田中 東子 (TOKO TANAKA) 東京大学大学院情報学環教授 (メディア文化論・フェミニズム)

博士(政治学)。メディア文化論、ジェンダー研究、カルチュラル・スタディーズ。1972年横浜市生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科後期博士課程単位取得退学。第三波以降のフェミニズムやポピュラー・フェミニズムの観点から、メディア文化における女性たちの実践について調査と研究を進めている。著書に『メディア文化とジェンダーの政治学:第三波フェミニズムの視点から』(世界思想社, 2012年)、『オタク文化とフェミニズム』(青土社, 2024年)、編著・共編著に『出来事から学ぶカルチュラル・スタディーズ』(ナカニシヤ出版, 2017年)、『ガールズ・メディア・スタディーズ』(北樹出版, 2021年)、『ジェンダーで学ぶメディア論』(世界思想社, 2023年)など。

成瀬 尚志 (TAKASHI NARUSE) 大阪成蹊大学准教授 (哲学・高等教育)

神戸大学大学院文化学研究科博士課程修了。博士(学術)。主な業績は『レポート課題の再発見:論題の設計と評価の原理』(単著, ひつじ書房, 2024年)、『学生を思考にいざなうレポート課題』(編, ひつじ書房, 2016年)、『現場の大学論:大学改革を超えて未来を拓くために』(共著, ナカニシヤ出版, 2022年)、『信頼を考える:リヴァイアサンから人工知能まで』(共著, 勁草書房, 2018年)。

宮澤 淳一 (JUNICHI MIYAZAWA) ◎本セミナーのコーディネーター

青山学院大学外国語ラボラトリー所長/総合文化政策学部教授 (文学研究・音楽学・メディア論)

青山学院大学国際政治経済学部・早稲田大学第一文学部(ロシア文学)卒業。東京大学より博士(学術)。主著に『グレン・グールド論』(吉田秀和賞, 春秋社, 2004年)、『マクルーハンの光景』(みすず書房, 2008年)。訳書に『グレン・グールド著作集』(みすず書房, 近刊)、ポリソフ『リヒテルは語る』(ちくま学芸文庫, 2014年)、『改訂新版音楽の文章術』(共訳, 春秋社, 2014年)など。近年、アカデミック・ライティングのサイテーションに関心が強く、また、大学では映画に字幕を付す「映像翻訳ラボ」を主宰する。